教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 366
2024年3・4月号
発行　名大生協理事会
編集　名大生協教職員委員会
☎学内線 7540　学外線 781-1111

国際開発研究科リレー・エッセイ２

「世界交通機関事情」

岡田勇

いつも新しい国や街に到着するとわくわくする。仕事柄、世界のあちこちの国に研究調査のために行ってきたが、到着直後から用事を入れることはあまりなく、たいていは時差ボケに対応したり、生活手段を確かめたりするために、半日～1 日くらいの準備期間を設ける。その間、携帯電話を使えるようにしたり、食べ物や水を確保したり、面談相手について予習したり、家族に無事を報告したりする。そして、面談先までの移動手段の確認や、持参し忘れたコンセント切替プラグや爪切りを入手するために街に出てみる。

この初日イベントの中で大切なことの１つは、交通手段について学ぶことである。今では Google Map などのアプリがローカルバスの経路や時刻表を教えてくれるし、Uber を使えばタクシーのぼったくりに煩わされる必要もない。けれども、どこでどうやってチケットを買えば良いのか、バスは時刻表通りに来るのか、そもそもどのような交通機関は存在するのかは、地元の人に聞かないと分からない。もっとも効率の良い交通手段は、長く住んでいる人にしか分からないものである。

これまでに訪れた国には実にさまざまな交通手段があった。カンボジアのプノンペンではタクシーの後ろに荷馬車の台がついた、いわゆるトゥクトゥクという乗り物があって、国際空港までそれで行けたりする。ボリビアの田舎の村を訪ねたときは、あまりに交通手段がないので、道を走ってくるものを何でも止めて（安全を確保しながら道の真ん中の方に出てブロック）、行き先の近くまで連れて行ってくれないか交渉することを経験した。つまりヒッチハイクがデフォルトの移動手段だった。そうでもしないと、無人の山の中で遭難するのである。その結果、じゃがいもを満載した大きなトラックの、まさにそのじゃがいもの上に立って手すりにつかまって移動したことがある。これも、ヒッチハイク仲間、地元のおじさんが教えてくれたことであった。

いわゆる途上国では整備されていない交通手段は多いが、ルールでがんじがらめの日本の交通機関より乗客にフレンドリーでもある。今では減少しつつあるが、ペルーの首都リマやその辺りの都市にはミクロやコンビと呼ばれるバスがあって、運転手と運賃回収係が、クラクションを鳴らし、声を張り上げて乗客を呼び込もうとする。バス停はない。正確にはあるけれども気にする必要がない。ルートにある道路脇に立って手をあげていれば、トヨタのハイエースを改造した乗合バスが急ハンドルを切って近寄ってくる。運賃回収係はたいてい「ハビエル・プラドォ！ハビエル・プラドォ！」といったようにこれから通る主要道路の名前を叫んで、「どうだ、乗ってみろよ」と誘いをかけてくる。行き先が違うので乗らないのに、もうあと何回か叫べば説得されて行き先を変えるだろうと信じているかのように、しつこく呼び込みをかけてきたものである。もし根負けして、（行き先を変更するのではなく）自分が望む行き先を告げると、「だったら、後からくる赤と黒のやつにのれ」といった親切なアドバイスもくれる。降りる時も、バス停を気にする必要はなく、「あそこのスーパーの前で降りるでぇ」と（スペイン語で）運転手に叫べば、10m くらいの誤差で降ろしてくれる。どこで降りるか分からなくても、バスの中で困っていると、周りの乗客がアドバイスをくれ、中には間違いもあるので議論が収まるのを待っていると、降りるところを運転手が勘づいて手配してくれる。何とも親切で、目が見えなくても、耳が聞こえなくても、行き先にたどり着くように助けてくれることだろう。そして運賃はべらぼうに安かった。

一度だけ、自分が乗っているミクロの運賃回収係がいなくなって、運賃回収係を代わりにやらなくてはならないという夢を見たことがある。通りを歩いている人を呼び込み、客の乗り降りを把握し、運賃を回収し、適切な運賃を取り立てるために誰がどこで乗ってどこまで行くのかをだいたい覚えている必要があった。アドレナリン全開のハードワークで、バスがどのあたりを通るのか、ルート沿いに何があるかも把握していなければならない。起きた時、汗をびっしょりとかいていたから、それはまさに悪夢

だった。それでも彼ら、彼女らの給料はきっと驚くほど低いだろう。

去年、コロンビアのボゴタ市で、トランスミレニオという市内交通の基幹バスに乗った。システムは manaca のような IC カードを買って事前にチャージし、乗る時に運転手の横か、もしくは大きな駅の改札でピッとタッチして精算する仕組みのようだった。私は、滞在が 2 日間くらいだったので IC カードを買わずに乗る手段を模索した。大きめの駅に行って、IC カードを発券する売り場のお兄ちゃんに、どうしたら IC カードなしで乗れるかを尋ねると「コラボラールしろ」とのこと。はて、それはどういうことかと思ったら、後ろに並んでいた女性に一声かけて、その赤の他人の IC カードに私のお金でチャージした後、その人についていけという。要は、その人の IC カードに乗車 1 回分の費用を追加でチャージして、その人の IC カードで 2 度タッチするということであった。

さて、行きはそれで何とかなったが、帰りが問題であった。帰りは駅ではなくバス停だったので、売り場はない。過去には暴力事件も多発したコロンビアの首都で、時刻表通りには来ないバスを待ちながら、一緒に同じバス停から乗車してくれる人がいるという追加条件を満たすという、初日にしては高難易度のイベントであった。日も暮れて暗くなりつつあり、乗り換えなしでホテルに戻れるバスは本数が少ない。ようやく目当てのバスがきて、若い学生風の人が乗り込もうとする時に、その人に「コラボラールしてくれませんか」と物乞いのように擦り寄って懇願するというコントを演じた。ところが、その人は苦虫を噛み潰した顔で「いえ、できません」という。こうなっては後が無いので、運転手と交渉である。2 日しか滞在しないから IC カードを買えませんという私的事情を説明しつつ、代替手段が無いかを尋ねてみた。生き残りをかけて、切羽詰まっていた。すると運転手は、車内放送のスイッチを入れ、「困っている人がいまーす」と乗客に声をかけた。1 人の女性がバスの後ろの方からやってきて、自分の IC カードでピッと支払いを済ませると、何食わぬ顔で自分の席に戻っていた。私の乗車分と思われる紙幣を渡そうとしても「僅かだからいらないよ」という。結局、受け取ってくれなかった。あとで友人に話したところ、実際に運賃は低いし、外国人には皆が親切な傾向にあるそうだ。それでも、この街について良い印象を持った。

南米だからか、途上国だからか、人々はとても優しい。システムがあまり便利で無いため、お互いに注意し、助け合うことが当たり前かもしれない。時刻表通りに来ることは奇跡なので、バス停では他の旅行者と積極的に会話して、そもそも今日は本当にバスが来るのかどうかを確かめることもよくある。社交は生き抜く術である。日本のシステムと比べると、いろいろと考えさせられる。日本に戻ると、道を行く人々に急に声をかけづらくなる。以前、久しぶりに南米から帰国した際、日本の空港からのリムジンバスに乗る前に時刻表通りに運行されているか、周りにいる人に尋ねたくなった。もし尋ねたら、少し怪訝な顔をされて、不審者扱いされたかもしれない。その後バスの運転手さんに、「停留所の途中で降ろしてもらえると一番自宅から近いので、一瞬だけ停車してもらえませんか」とお願いしたところ、そういったことはできませんとすげもなく断られた。そんな要望に応えていれば、時刻表通りの運行は難しいだろうし、責任問題もあるだろう。どことなく寂しく感じた。

教育発達科学研究科リレー・エッセイ２

生涯学習から教育福祉と教育権保障を考える

辻　浩

このリレー・エッセイが教育発達科学研究科に回ってきた一回目に、石井拓児先生が「子どもの権利と尊厳」について書かれているので、今回はそれを受けて、「教育福祉と教育権保障」をめぐって、社会教育・生涯学習の立場から考えてきたことを書いてみたい。

「教育福祉」とは教育と福祉が連携してすべての子ども・若者の幸せを求めるものである。当たり前のように思われるが、教育は子どもの生活が安定していることを前提に家庭学習を求め、福祉は子どもの進学について制限を設けてきた。そのために、貧困や障害、差別といった課題をかかえている子どもの教育権が十分に保障されてこなかった。

その一方で、特別な困難をかかえていない子どもも将来の安定した生活のために、競争主義的な教育に巻き込まれて、自分らしく生きることを阻まれてきた。困難をかかえた子どもの教育権を保障しようとする教育福祉は、このような主流の教育観を相対化する役割を果たすことも期待される。

教育福祉を本格的に提唱したのは私の恩師の小川利夫先生である。小川先生は若い頃名古屋大学に助手として在籍した後、東京の日本社会事業大学に転出し、再び名古屋大学の教員となって定年まで勤められた。高度経済成長期に社会福祉学部に勤めたことから、都市の貧困地帯や漁村の貧困問題に注目するとともに、中卒で集団就職した若者の自己形成と勤労青年教育に関心を寄せられた。また、名古屋では児童養護施設で暮らす子どもの高校進学率が低いことを改善する運動に施設職員とともに取り組み、進路保障という観点から教職員組合ともかかわりをもたれた。

＊

このように、教育福祉は高校進学に象徴的にあらわれる子ども・若者の教育権の問題として取り組まれ、その支援の実践や改善を求める運動は、労働組合や職能団体が担ってきた。しかしその後、高校進学率は上昇して教育権が保障されたように思われ、残された課題があるにもかかわらず、労働組合の活動は衰退し、子どもにかかわる職員が自主的な学習会に取り組むことも少なくなった。また、行政改革や自治体改革によって、公務労働者の削減や頻繁な異動が行われ、職員が専門性を形成して状況を改善することが難しくなってきた。そして、グローバルな経済競争の中で生き残ることが日本社会の課題とされ、雇用の流動化がすすみ、人びとの間に格差と分断が起きている。

このような中で、私は教育福祉と教育権保障をどこに依拠してすすめればいいのかを考え、地域で取り組まれている実践から示唆をえるとともに、それにかかわる研究から学び、次の三つのことを考えてきた。

一つは、経済や働き方を多元化することである。大学院生の時に内発的発展論という考え方を知り、鹿児島や高知の大学に勤めた時には、地域内経済循環を研究している人に出会った。また、東京の大学に勤めていた時に、若者支援の取り組みの中で、安心できる居場所から社会参加にすすむために、競争主義的ではない「もう一つの働き方」が必要であるということも、地域内経済循環にかかわることであると考えた。

二つは、課題に真剣に向き合う人のパワーということである。かつて組織労働者が担った民主的な社会をつくる力は、今は切実な課題をかかえた当事者組織にあるのではないだろうか。困難をかかえた人たちは、かつては社会に向かって主張することが難しかったが、今日では声をあげ、それは高い説得力をもっている。また、協同組合やＮＰＯにも、自分たちの思いを仕事にしてそれを守り発展させていく力強さを感じてきた。

三つは、公務労働者のエネルギーはどのように生まれるのかということである。多くの自治体で「住民と行政の協働」が唱えられているが、現実には、行政が住民を動員しようとし、住民が行政を批判する悪循環が起きていることが多い。そのような中で、住民の自由な話し合いと学習から見えてきたことを公務労働者の力で実現可能なものにし、そこから次のことを住民が考え公務労働者が実現可能なものにするという循環の中で、公務労働者がいい仕事をしている実感をもてるようにすることが必要である。

グローバル経済の中で活躍する人材も必要ではあるが、それとは違う地域経済や働き方を認めることで、困難をかかえた人も社会に参加しながら自分らしく生きられないか。切実な課題をかかえる当事者や良心的な仕事を展開している協同組合・ＮＰＯの発言力を高めることで、世論をつくっていけないか。そして、このことを受けとめる中で、公務労働者がエンパワーすることができないか。組織労働者の社会運動の力が低下する中で、教育福祉と教育権保障をこのようにすすめることを考えてきた。

＊

このような私の考えは、進学問題は教育福祉と教育権保障の一つの課題ではあるが、そこに焦点化しようというものではない。ところが、最近、障害のある人の進学問題を正面から取り上げて教育権保障をめざす取り組みに出会った。それは、高校や大学に特別な理由で設けることができる「専攻科」を設置して、二〇歳まで学べるようにする取り組みである。特別支援学校での専攻科の設置は私立や無認可の学校が中心で数も少ないが、近年、福祉事業所の生活介護を「福祉事業所型専攻科」と称して、学習・文化活動を中心にした取り組みにすることが広がっている。また、無認可ではあるが、発達・知的障害のある人のための全日制四年制の大学も誕生している。

このような進学問題を在学期間の延長というかたちで取り組む教育権保障の動きがあることに驚いていたところ、これまで大学に進学することが少なかった聴覚障害や視覚障害のある人、重度の身体障害のある人を中心に受け入れるオンラインのバリアフリーな大学をつくることへの参加を依頼された。この大学の設置が認可されたら、いよいよ障害のある人を中心にした正規の大学が生まれることになる。

視野を広げて教育福祉と教育権保障を考えてきた私が、在学期間延長に焦点化した取り組みに参加することになって驚いているが、このようなことを往復しながら、教育福祉と教育権保障にかかわっていけたらと思っている。

生協職員紹介 第38回

南部地区 専務補佐
犬飼 文崇

■自己紹介
愛知県稲沢市出身。
愛知県内の大学を卒業後、2005年4月に名古屋大学生協へ入協し現在18年目。南部地区の専務補佐をしております犬飼です。
北部書籍1年→ブックスフロンテ2年→北部購買13年→南部地区2年目です。入協から名古屋大学でお世話になっております。

■どんな仕事を？
現在は専務補佐という立場で、主に南部地区の販売系を中心にマネジメントをしています。
また、新学期の教材や講座等、新入生が不安無く4年間をスタートできるよう、学生スタッフとも協力しながら取り組んでいます。
北部購買の時は、研究室訪問が主な業務でしたので、私の顔をご存じの方がいると嬉しいです。

■趣味・休日の過ごし方
旅が好きで、車やバイクでいつもどこかに行っています。昨年日本3週を達成し、4週目に突入。旅のルールはコンビニ禁止！その土地のローカルスーパーや道の駅を活用しながら楽しんでいます。高速もほとんど使いません。
フェリーは使います。楽しいですよ(笑)

■読者の皆さんへひとこと
大学教職員/学生のみなさんのキャンパスライフで、大学生協があって良かったと思っていただけるよう、に寄り添いながら日々の業務に取り組んで行きたいと思います。我々の発信不足もありますが、生協って思いのほか色々なことができます。
ぜひ、お近くの生協職員へお声がけください。

〇南部購買
大学内線:7549 外線:052-781-1112
※営業時間については生協ホームページにて ご確認ください。
https://www.nucoop.jp/

名大グッズ紹介 第38回

名大ちょうちんマグネット
税込490円

手のひらサイズで提灯の後ろ側にマグネットが付いています。外国への手土産、お土産にいかがでしょうか。

CO-OP QUIZ

No.366
2024年3・4月号

今回も漢字クイズをご用意しました。
以下のクイズが解けたら、左上のQRコードからご応募ください。
パソコンからご応募の方は
http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html
もしくは「かけはし クイズ回答」のキーワードで検索すると上記ページにアクセスできますのでご応募ください。
クイズの解けなかった方はご意見ご感想だけでも結構です。
お待ちしています！
（なお、今回から賞品を図書カードから「生協電子マネー（Meica）500円分」に変更させていただきます。）

365号の解答：　学食

中央の①と②に漢字を入れて、矢印の方向に読んで二字熟語をそれぞれ４つずつ作ろう。さらに、その①と②とを並べて二字熟語を完成させよう。それがクイズの答えです。（ヒント：３月３日は...）

季
↓
関→①→約
↓
制

俳
↓
文→②→点
↓
会

答え：①②

応募総数　365号の正解者　15名
正解者数　15名
当選者（敬称略）
吉原　嘉子（未来材料・システム研究所）
森　彰吾（学際統合物質科学研究機構）
松川　遥（理学研究科）
山川　藍（総務課図書係）
山形　英郎（国際開発研究科）

当選者の方ははお手数ですが、東山地区（北部生協組合員コーナー）、鶴舞地区（医学部書籍）、大幸地区（大幸購買）まで図書カードを受け取りにお越しください。
申し訳ありませんが、営業時間中にお願いいたします。

応募要項
〇締切は3月31日（正解発表は367号）
〇応募は左上のQRコードから
〇クイズ正解者・ご意見やご感想の記入者（いずれも生協加入者　但し、当選後のご加入も可）の中から、抽選で5名の方に生協電子マネー500円分をお贈りします。
〇生協へのご意見・ご要望をどしどしお寄せください。

かけはしの輪

前号の感想

★（前々号の感想）詰将棋カンタンでした。【ムラタツ】
（編2）今回は漢字クイズを掲載しましたが、今後も不定期で詰め将棋を掲載したいと思います。
★研究の合間の休憩時間で解くことにしているのですが、なかなか①が解けず、その後の研究中も謎解きに頭を持ってかれてしまいましたっ！でもとっても楽しいっ！
【がんばろーキティ】
（編）ありがとうございます。解いているときの熱中した様子がお便りから感じられ、こちらもかけはし編集の楽しみになっています！
★「子どもの権利と尊厳について」というテーマに興味を持ったので拝読しました。子どもの権利が侵害されている場合に救済する制度がじゅうぶんでないという点に共感しました。【匿名】
（編）新連載にさっそく反響があって嬉しいです。今後ともご愛読ください。
★応募フォームに「詰将棋の答え」となっていますがクイズの回答を入力してよろしかったでしょうか。【匿名】
（編）不手際で、回答欄の更新ができておらず申し訳ありませんでした。回答ありがとうございました。
★いつもネコの記事を楽しく読んでおります。新たな記事を期待しております。よろしくお願いします。
（編）ありがとうございます。ネコ様は毎日何かネタを与えてくださるのできっと大丈夫です。
★防災に関するエッセイが、年始の大地震のニュースとも相まって、心に響いた。【ごんごふ】
（編）実は執筆者の方からは7月にいただいた原稿でした。私の不手際で9月までそのことに気が付かず、結局前号の掲載となったのですが、まさかこんなタイミングになるとは思ってもみませんでした。
　この場をお借りして、能登半島地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。
★紙面のうち猫関係の記事の割合が増えてきているような気がします（いい傾向だと思います）。
【匿名】
（編）ありがとうございます。今後もかけはしを開いていただけるような誌面作りに励みます。
★なごねこだよりがほっこりした。猫好きなのでかわいらしい猫が見られるとうれしい。名古屋大の中でも身近にそんなサークルがあるのだと知った。【まつか】
（編）まつかさんに存在を知っていただけたことがなごねこ便り掲載の成果です。今後ともなごねこかけはしをよろしくおねがいします。
★「なごねこ便り」をいつも楽しみにしています。サビちゃんに安住の地が見つかりますように。
【ぺ子ちゃん】
（編）サビちゃん未だ行き先決まらないんです……どなたかおられましたら教えてください。
★前号の解答欄がないので、答え「学食」はここに書きます。漢字のクイズを帰宅して解いていたら、中学生の娘が横から覗いて来て「なんじゃこりゃ！難しいね、意外と」と言うではありませんか。簡単な文字ばかりあるのに、こんな組合せはないはずと、数学の勉強の面倒を見ながら、突然ふと思い付きました。さすが名大。頭の体操になりました。
【タッチー】
（編）親子でクイズに熱中していただいた様子がうかがえ、私たちも出題した甲斐があったと感じています。ありがとうございました。
★ネコの写真がたくさんで癒やされました。【匿名】
（編2）楽しんでいただきありがとうございます。私も癒やされます！
★今月号は猫の話が多くて嬉しかったです。うちでも猫を二匹飼っているので災害が起きたら家族で分担して運ぼうと話はしますが、いざ火事になったりしたら気が動転してスマホは忘れるだろうな。。と思いました。また、亡くなった猫がスマホ等で「ペットのお友達」と写真が編集されて表示されるとしんみりした気持ちになるのも共感しました。【花中島マサル】
（編2）前号にもありましたが、災害が起きた時の備え、物質的な備えだけでなく心の備えも必要ですね。
★開発援助についてとても分かり易く、勉強になりました。自分なりの考えを持つこともできた気がします。【目より上のハチワレ】
★同僚の記事ですが、開発援助はどこへ行くは勉強になりました。

【オデ】
（編2）開発援助に関する記事をお読みいただきありがとうございます。皆様の考えをお寄せくださいましたら、筆者の方に伝えさせていただきます。

生協への意見・通信

★新しい生協に行ってみたいと思いました。【匿名】
（編）ぜひ行ってみてください。購買の脇にはカレーのテイクアウトもありますよ。
★生協のオススメメニューを教えてほしいです。【匿名】
★学食のおすすめレシピ（簡単に作れるもの）【匿名】
（編）おすすめメニューコーナー、採用します！
★改善要望です。
「かけはし」が届く時と届かない時があります。
猫の話題以外にも気楽に読めるページがあるといいなと思います。
（猫ばかりでお腹いっぱい）
横書きだったり縦書きだったり、フォントも書式もバラバラで誌面が見にくいです。【匿名】
（編）「かけはし」は現在年5回の発行となっておりまして、発行されない月がありますことをご了承ください。
　内容につきまして、前号は特に猫だらけになってしまいました。現在の体制では「発行すること」を最優先と考えており、記事の内容のバランスやフォントの統一まではご容赦ください。
　もしご覧の皆様の中で、フォントの統一や内容のバランスの調整を「やってみたい」という方いらっしゃいましたら、ぜひ編集部に加わっていただけませんか？
　巻末のQRコードのクイズ回答送信コーナーからご連絡をおまちいたしております。
★事務職員が仕事のやりがいを語るコラムを読んでみたいです。
【ごんごふ】
（編）良いですね！　誰か原稿を書いてくれる方の心当たりはありませんか？　私の方でも記事を書いてくださる方を探してみます。
★ブックスフロンテの営業時間が試験的に伸ばしていただけていて、とても利用しやすくなりました。研究に必要な書籍も、個人的な趣味の本も買い求めやすくなったので助かっています。【まつか】
（編）そのお言葉は嬉しい！！　工夫が誰かの役に立つのは、私がした工夫ではないもののなんだか嬉しいです。
★1年前のことになりますが、病気で休職している間に生協のアプリができていて驚きました。年内に手続きをしないとポイント移行ができなくなるらしい、とたまたま店頭で聞いた同僚の方が教えてくれて、自宅からなんとかギリギリにネットで登録できて助かりました。あの時は焦りました。【ぺ子ちゃん】
（編）体調は回復されましたか？メイカアプリの登録もぎりぎり間に合ったようで安心しました。あれ難しかったですよね？
★書籍15％オフはありがたいのですが欲しい本がないことが多いので、その日に支払えば15％オフになると助かります。
【花中島マサル】
（編）たいへん申し訳ありませんが、書籍15％オフの日は在庫のみが対象となっております。今後割引対象が変更となる場合はお知らせいたします。
★今号もネコたちへの思いが詰まった記事が多く、涙が出ました。
【目より上のハチワレ】
（編2）記事を読んで涙を流してくださるなんて有り難いです。

編集部より

　読者の皆様からの「かけはし」へのご感想ならびに生協に対するご意見沢山いただきありがとうございます。
　今回は巻末に漢字クイズをご用意いたしました。解けた方も解けなかった方も、巻末のクイズのページ左上に付いているQRコードからご意見ご感想をお寄せください。
　パソコンからのアクセスの場合は「かけはし　クイズ回答」のキーワードで検索していただけますとクイズ応募フォームのページに行くことができます。
　ご応募の際、「かけはし」の感想、生協へのご意見など、なんでも結構ですのでお書きいただければと思っています。